

(1) 第2次三遠南信地域連携ビジョン策定方針(案)について

1 第2次三遠南信地域連携ビジョンの策定について

平成20年に計画期間を概ね10年と定めて策定した、三遠南信地域連携ビジョンが期間の満了を迎えるため、三遠南信地域一体となった地域づくりの新たな指針となる、第2次三遠南信地域連携ビジョン(新ビジョン)を策定します。

2 新ビジョン策定にあたっての基本的考え方

現行の第1次三遠南信地域連携ビジョン(現行ビジョン)を基本とし、国土形成計画や中部圏広域地方計画などの国全体の構想や国土構造、人口減少や少子高齢化などの社会情勢の変化、この10年間で三遠南信地域での連携の蓄積など、現行ビジョン策定時からの状況の変化をふまえ、現行ビジョンの体系や方針、具体的な実施を見据えた事業を見直すことで、三遠南信地域の目指すべき将来像を定めた新ビジョンへと更新します。

3 新ビジョンの計画期間

概ね10年間

4 新ビジョンの範囲

| | |
|-------|---|
| 東三河地域 | 豊橋市、豊川市、蒲郡市、新城市、田原市、設楽町、東栄町、豊根村 |
| 遠州地域 | 浜松市、磐田市、袋井市、湖西市、森町、掛川市、菊川市、御前崎市、牧之原市 |
| 南信地域 | 飯田市、松川町、高森町、阿南町、阿智村、平谷村、根羽村、下條村、売木村、天龍村、泰阜村、喬木村、豊丘村、大鹿村、駒ヶ根市、飯島町、中川村、宮田村、伊那市、辰野町、箕輪町、南箕輪村 |

5 新ビジョンへと更新する現行ビジョンの主な項目

(1) 現行ビジョンの目的

- ①道州制や国土形成計画など県境を越える地域づくり制度へのアピール
- ②経済活動のグローバル化に対応した県境を越える産業競争力の強化
- ③市町村合併による地域構造の変化に対応した広域行政の推進
- ④地域連携活動の相乗効果の発揮
- ⑤県境を越えた社会基盤を活かした地域づくり

(2) 現行ビジョンのテーマ

三遠南信 250 万流域都市圏の創造 ～世界につながる日本の中央回廊～

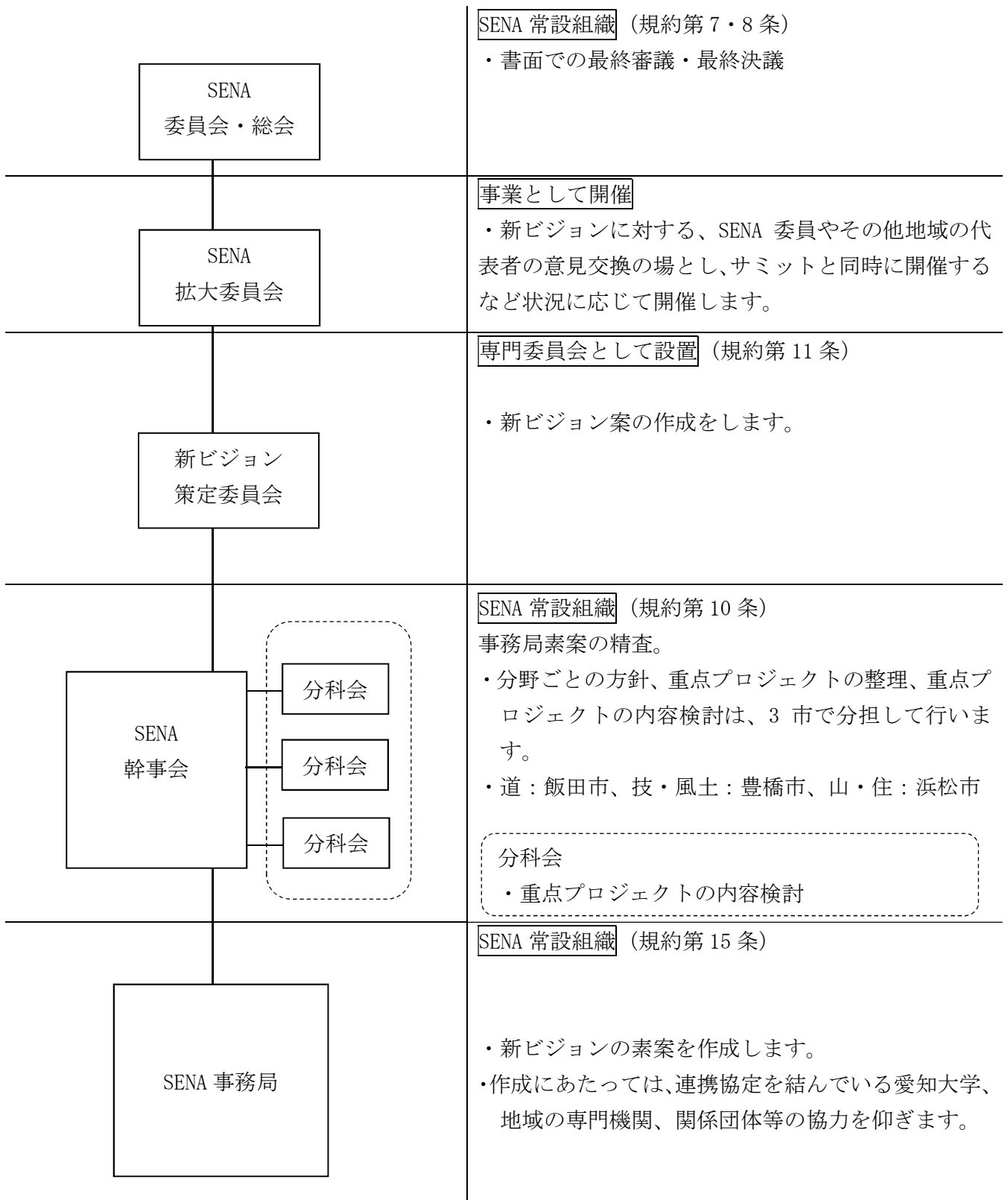
(3) 現行ビジョンの政策の基本方針

- ・道 「中部圏の中核となる地域基盤の形成」
- ・技 「持続発展的な産業集積の形成」
- ・風土 「塩の道エコミュージアムの形成」
- ・山 「中山間地域を活かす流域モデルの形成」
- ・住 「広域連携による安全・安心な地域の形成」

6 策定体制

SENA 専門委員会として設置する新ビジョン策定委員会において新ビジョン案を作成し、SENA 総会で決議します。

策定体制のイメージ



7 基礎調査等

SENA 構成員、連携協定を締結している愛知大学と連携し、現状把握と未来想定に必要な調査を行います。

- ・三遠南信地域の人口や経済状況などの基礎データ
- ・地域における各活動主体の現行ビジョンにむけた取組等の実施状況
- ・地域における各活動主体の新ビジョンにむけた意見

8 策定スケジュール

(1) 大まかな流れ

平成 29 年 6 月に新ビジョン策定委員会を設置、同年度に開催予定の第 25 回三遠南信サミット in 遠州で基本方針の検討を行い、平成 30 年度に開催予定の第 26 回三遠南信サミット in 東三河において、最終報告を行います。

